

シリーズ「アジアほっつき歩る記」第7回

ミャンマーの真実(3)

～ミャンマー地方事情～

須賀 努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

ヤンゴンは今やミャンマーでは突出して発展した都市である。では地方は一体どうなっているのだろうか。筆者はミャンマー東北部、中国と国境を接するシャン州に行って見た。シャン州はかなり広大な高原地帯であり、シャン族をはじめ、多くの少数民族が暮らす場所である。

車が走っていない

ヤンゴンからシャン州に行く場合は、ヘーホーという空港で降りる。今回7年ぶりに降りてみたが、車も殆ど見られず、のどかな田舎は変わっていなかった。ヤンゴンでは国際空港が新しくなり、外にはタクシーが並び、空港を出ると車が渋滞する。同じ国でも全く違う世界がそこにある。

観光地であるインレー湖に行く。観光用のバスやバンは多少走っているが、この地の基本は馬車や人力車、そして自転車である。湖では勿論船であるが、エンジンの付いた中型船あり、小舟は殆ど手漕ぎ、そしてインレー湖名物のインダー族の足漕ぎも

ある。

地元の男性に聞くと「最近中国製バイクが300ドル程度と安くなり、ようやくバイクが買えるようになってきた」という。ようやく車を買えるようになってきたヤンゴンとは相当な経済格差がある。小さな子供と奥さんの3人乗りでバイクを運転している姿を見ると、90年代のベトナムなどを思い起こさせる。

物価も殆ど上がっていない

ヤンゴンでは物価上昇も他のアジア並みに急激であったが、ここシャン州ではそれほどの上昇は見られなかった。シャン州名物シャンヌードルは実に美味しいスープ麺だが、7年前も今も1杯500チャット(約50円)であったのには、嬉しくなってしまった。

余談となるが、ここシャン州には、豆腐もあれば納豆もある。豆腐の色は黄色いが、サラダにして玉ねぎなどと混ぜて生姜ペーストで食べると実に美味しい。納豆は日本のしょうゆを持って行って掛ければ、全く同じ。煎餅は天然の味、赤飯もココナッツをかける以外は日本と同じ。食から見る限り、雲南省からミャンマー東北部は恐らくは日本のルーツの一つであろう。因みに筆者も先祖はビルマ人やシャン人であろうとよく言われるほど、地元の人々の顔は日本人に近い。

シャン州は農業が主な産業となるが、野菜の値段などはここ数年上がっていない。農民の生活は楽ではなく、農地を捨てて、他の地方の鉱山などへ働きに出る男たちも増えていると聞く。ミャンマーでは



写真1 シャン州で新しいバイクを買った親子



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。



写真2 ビンダヤのローカル市場

資源が重要な産業となっており、農業に比べてかなり良い給与が得られる。

ホテル代もヤンゴンのように3-5倍にはなっていない。7年前に泊まったホテルの料金が30ドルから40ドルになっている程度。またシャン州の3都市を訪問したが、どこでも新しいホテルが出来ており、設備やサービスも格段に良くなっていたので、値上がりしたとの印象は少ない。

通信事情

7年前、ミャンマーではインターネットは殆ど通じていなかった。ヤンゴンの一部でネットカフェが出来てはいたが、そのスピードは非常に遅く、接続も切れ切れだった。今回ヤンゴンのホテルではWifiが設置されており、スムーズに通じて驚いた。Facebookやツイッターも繋がっていた。ただホテルによっては料金が高くても設備が整っておらず通じない、安定しない所もあると聞く。

シャン州ではどうか。30ドル程度のホテルにはWifiが設置されていない所も多いが、最近出来てきた家族経営ホテルでは、若い息子や娘がPCとWifi

を設置し、ネットの接続が出来た。ネットカフェは街に数軒はあり、地元の若者たちがFacebookに興じる姿は世界が近づいていると感じた。

携帯電話は7年前、1台数千ドルもする高級品だったが、今や値段も200-300ドルまで下がり、業務用を中心にかなりの人が所持しており、連絡は問題なく出来る。海外から出張で来る場合は、ヤンゴン空港でSIMカードを借り、中国製などの携帯機器に入れば普通に使える。最近日本でミャンマー用の携帯を貸し出すサービスが始まっており、益々便利になって来ている。

シャン州でも携帯の普及は進んでいた。筆者のガイドをしてくれた女性も携帯メールを駆使して、様々な連絡をこなしていた。7年前には考えられない変化だった。ただ一部の地域では未だに全く携帯電話が繋がらないところもあり、特に地方へ行く場合は要注意だ。

インターネット、携帯は恐らくあつと言う間にミャンマー全土に普及するだろう。実はミャンマーでは衛星放送も急速に発展しており、シャン州の山間ですら、電気が来ている所には衛星放送のアンテナが取り付けられている家を多く見掛けて驚いた。そこからこれまで入って来なかった世界情勢やミャンマー国内事情に関する情報入手も容易になって来ている。

だが、今回見てきたように地方とヤンゴンの差は余りにも大きい。教育も田舎では小学校に行けない子も多く、そのレベル差が歴然として来ている。6000万人を越える人口、豊富な優秀な人材、というミャンマーに使われる言葉は地方からは正直なかなか見出せない。